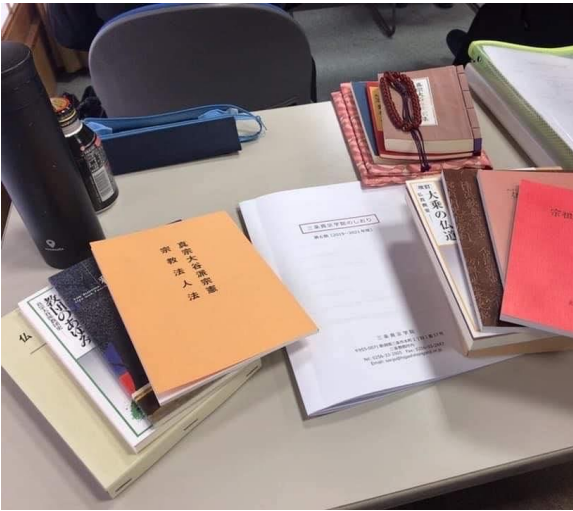


三條別院のご案内

三條別院に想う

▲今年三月に三條真宗学院を卒業された松木祐子氏にご執筆いただきました。

この春、三條真宗学院を無事に卒業することができました。坊守業や子育てがある中で毎週末に三條まで通い続けることは思った以上に大変でした。しかし、家族や友人をはじめ、学院六期生の仲間や職員の皆さまから支えていただきながら何とか最後まで続けることが出来ました。本当に感謝しかありません。



【テキストで一杯の机】

真宗大谷派三條別院
TEL : 0256-33-0007
E-mail : sanjoebetsuin@wing.ocn.ne.jp

私が真宗大谷派教師を目指すなど、それまでは考えもしなかったことですが、身の回りに次々と起きること一つ一つが縁となつて、半ば強制的に学院へ通うことを決定しました。「今となれば」大変有り難い仏縁であつたと感じています。

学院へ通う理由は当然ながら人それぞれですが、私の場合は法事や葬儀の手伝いをする事が主な理由でした。あくまで「資格取得」や「技術習得」が一番の目的であつたように感じます。しかし、日々学んでいく中で、当初の感覚が少しずつ変化していったように思います。

学院を卒業した今、授業で学んだことを思い浮かべると、印象的だつたこと以外はほとんど忘れてしまいました。(一)多忙の中、熱心に教えてくださった先生方、申し訳ありません！(二)私が学院生活を振り返って思い出すことは、皆で輪になつて食べた夕飯のことや、感極まつて泣いてしまったこと、飲み会で日付が変わるまで飲んだこと、授業の合間に愚痴を聞いたり話したりしたこと、皆で試験に合格するためにグループLINEで確認し合つたことなど……。

些細なことばかりなのに、今思い出しても、お腹や胸の辺りが温かくなつて、また皆と会えることが楽しみになります。学院内は、互いの考

えを尊重しようという雰囲気がありましたから、自分でも驚くほど自然に過(す)すことが出来ました。

入学当初の目的が変わつたように感じるのは、ただ資格を取得するというよりも、ホツとできる居場所や共に法を聞いていく同朋(きん)を求め、る気持ちが強くなつたからなのだと思います。

これからも友と一緒に、佛法を聞き続けていきたいと思ひます。そして、今後は(門徒がホツと出来る居場所作りなどもやっていきたいと考えています。

松木 祐子氏 (第二十四組 専明寺坊守)



教区の活動にもスタッフで参加
(結の会、前列右から2番目)

○次回の「三條別院に想う」は、

東護塚史氏 (第十九組 改観寺)

より「執筆いただきます

三条別院巡回の「報告

四月五日、第二十三組さんにお招きいただき、阿賀野市福祉会館にて別院巡回を三年ぶりに開催しました。海岸輪番のご法話を五十名近い方々が聴聞され、とても和やかな雰囲気でした。ありがとうございました。

三条別院公開講座

◆期日 六月十二日(月)

◆時間 午後六時三〇分〜午後九時

講義一二〇分、質疑応答あり

◆講師 中島 岳志氏

(東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院)



本年の三条別院公開講座の講師は、昨年引き続き、中島岳志氏に決定しました。『朝日平吾の鬱屈』『血盟団事件』等、戦前の政治テロを研究対象としている中島氏は、元首相の狙撃事件についてメディア等でたびたび発言されています。多方面にわたり活躍をされ、多忙な先生ですが、今回は直接三条別院に来ていただきご講義いただける予定になっております。(平

日・夜の開催)。詳細な内容については講師の先生と相談中ですが、今年は専門の政治学について、現在の日本における政治情勢について、著作『親鸞と日本主義』を踏まえながらお話しただく予定です。ぜひお越しください。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃定例法話会

毎月十三日の闡如上人のご命日の定例法話会を宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け事業として昨年より継続しております。※今回は会場は旧御堂となります。

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

◆五月の講師

井上 円 氏 (高田教区浄泉寺)



◆日時 五月十三日(土)

午後一時三十分より

午後四時三十分(勤行、座談あり)

◆今後の講師

六月 藤場 芳子氏 (金沢教区常讃寺)



宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日時 五月二十八日(日) 午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讃 淘五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

宮本亮二氏 (高田教区榮恩寺)

▲昨年に引き続き『御文』をテーマにお話しさせていただきます。五月からは一帖目がテーマとなります。

◆今後の講師一覧

六月 朝倉 奏 氏 (第二十組金寶寺)

七月 大久保州 氏 (佐渡組廣永寺)

八月 佐々木恵一郎氏 (第十組行通寺)

九月 本多智之氏 (第十八組永傳寺)

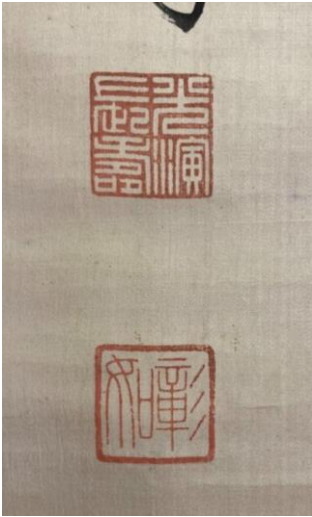
十月 八田裕治氏・八田摩矢子氏 (第十七組浄福寺)

十一月 田村大輔氏 (第二十組専念寺)

十二月 橘 出氏 (第十八組久唱寺)

初歩の篆刻教室

一昨年開催し好評であった三条別院書道教室の木原光威先生による「初歩の篆刻（てんこく）教室」の第二回を開催します。第一回は白文でしたので、第二回は**朱文下の印**を作製します。雅号や法名、座右の銘などを決めていただき、先生で用意していただいた石と篆刻刀で掘ります。もちろん白文でも大丈夫です。五月十七日（水）昼の部午後三時から五時、夜の部午後六時半から八時半、参加費二千円です。詳しくは案内チラシをご覧ください。



【白文 「光演長寿」】
【朱文 「彰如」】



【大谷光演（彰如）上人の書】

子ども奉仕団報告

四月二日に三条別院子ども奉仕団が開催されました。「おてらであそぼう はなまつり」のスローガンのもと呼びかけを行い、三十名弱の子どもたちが三条別院に集まりました。新型コロナウイルス感染症の影響で二年間中止となっておりましたが、多くの参加者が楽しく過ごしてもらえるように、そして初めて会う友達と共に仏事に関わることで、「いのちの大切さ・本当の私」について考えられるように、子ども奉仕団委員長の渡邊量氏を中心に実行委員会で会議を重ねて、無事に再開することができました。



また、本年は一一七三年四月一日に親鸞聖人がご誕生されてちょうど八五〇年の年ということで、本山では親鸞聖人の御誕生と立教開宗の慶讃法要が勤められていました。三条別院では例年この子ども奉仕団において親鸞聖人とお釈迦様のお誕生法要を勤めており、節目に当たる年に再開を果たせたことは万感の思いです。参詣者も、スタッフを含めると百名近く、教化審議会委員の内陣出仕もあり、なんと雅楽入り法要も復活できました。来年もこの調子で、奉仕団を開催できればと思うところです。

庭講報告

昨年の遅い春とは打って変わり、今年は三月の前半より暖かい日が続いていました。

三月十三日が雨のため外作業ができず、三月後半に冬囲い撤去と藤棚作製を風間会長と職員で行いましたが、四月十三日は無事に快晴だったため、池の水抜き清掃と掃き掃除を庭講皆で行う事ができました。藤は昨年よりも枝が伸び、花の芽も多くついているので、今年は更に綺麗に花が咲いてくれると思われれます。



フードバンクを継続中

―四月の別院でのフードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒―

第二十組誓慶寺門徒、佐渡組専得寺
その他、匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は五月二十四日(水)です。

随時募集中

○別院書道教室 (生徒募集中!)

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威氏 (新潟県書道協会理事)

月謝 三,一〇〇円 (テキスト代含む)

○別院声明教室

夜の部 (午後六時～八時)

講師 長田 淨見氏 (第十六組誓慶寺)

昼の部 (午後三時～五時)

講師 別院列座

開催日 二月十四日(火) (済)

三月六日(月) (済)・四月十日(月) (済)

五月二十三日(火)・六月五日(月) (全五回)

その他の講座案内

○有志の会庭講「毎月十三日」

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか?
毎月十時から、午後は定例法話を聴聞します。
お気軽にご参加ください。

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(公陰像)をお迎えして、聞法会を開催しませんか?

○別院奉仕研修について

半日の奉仕研修等にも対応しております。

【奉仕研修眞加金】

一人あたり半日(午前または午後) 五百円、一日千円

一泊二日は上記の眞加金に順じて半日五百円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修眞加金に含まれる。②シーツ等クリーニング代千円

③食事代、ご要望等ございましたらご相談承ります。

◆◆編集後記◆◆

三月二十五日から始まった親鸞聖人の慶讃法要も、いよいよ円成に近づいています。教区内においてても、この期間に多くの方がお参りをされたことと思います。私自身も参衆加勢という有難いご縁をいただき、お参りをさせていただきました。

「私にとって」この慶讃法要とは何なのか。二年前の四月に池田勇諦氏が真宗本廟お待ち受け大会で話されたことが、今でも自分の課題としてあります。私にとって、親鸞聖人が御誕生になられたとはどういうことなのか。池田氏は、この「私にとって」の一点が抜け落ちれば、慶讃法要は自分とは関係なくなり、第三者となり、見物人ではなくなると言われました。果たして私は自分事



として慶讃法要にお参りできたのでしょうか。

慶讃テーマの「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」についても同じことのように思います。「私にとって」人と生まれたことについてどういった意味があるのか。しかも南無阿弥陀仏のお名号が頭に付いています。人間中心の物差しによって生まれたことの意味を量るのではなく、お念仏を中心として自身の物差しを問う。この慶讃法要はそのことを確かめるとともに、問い続ける念仏生活の出発点になったように思います。

なお、昨年の五月二十九日に新門様にお出ましたいただき、教区の慶讃法要お待ち受け大会が開催されましたが、記念植樹として新門様にお手植えしていただいたハナミズキも、無事に越冬し、紅白の綺麗な花を咲かせました。ちょうど四月中旬から五月にかけてが見頃の様子です。それを見て、昨年にも新門様がいらつしやうたことを思い出しました。新門様が将来また三条別院に来院された際に、成長した二本のハナミズキを見て、当時の事を思い出していただければと思うところです。皆様も別院にお越しの際には、是非ハナミズキの様子をご覧になっていただけたら嬉しいです。

(廣河)